

## 基準の観点

学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

福岡県北九州市

#### ○学校名

福岡県立若松高等学校

#### ○学校のURL

<http://wakamatu.fku.ed.jp>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】各学年4学級 【合計】12学級

#### ○児童生徒数

【全生徒数】445人（平成24年5月1日現在）

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

##### 【学校の教育目標】

「礼儀・責任・自主」

礼儀をわきまえ、責任をもって行動し、志の実現に向けて自主的に学び、挑戦する生徒を育成し、「地域に愛され、信頼される学校」を目指す。

##### 【人権教育に関する目標】

生徒一人一人の学力と進路の保障に努めるとともに、人権尊重の精神を育成する教育活動を推進する。

#### ○人権教育にかかる取組の全体概要

##### ○ 学校の教育活動全体を通じた人権教育の推進

教科等指導、生徒指導、学級経営など、その活動の全体を通じて、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を一体となって取り組み、生徒一人一人が自分が大切にされていることを実感できる学校づくりを推進する。

##### ○ 生徒の自主性を尊重した指導方法の工夫

生徒が「感じ、考え、行動する」主体的・実践的な学習や取組になるよう、内容・指導方法等を工夫することを通して、「知識的側面」「価値的・態度的側面」「技能的側面」の資質・能力を育成する。

### 3. 特色ある実践事例の内容

(取組のねらい、目的)

人権が尊重される「環境づくり」を土台にして、人権が尊重される視点で授業や学校行事等を見直すことで、「環境づくり」「学習活動づくり」「人間関係づくり」に一体となって取り組み、生徒一人一人が自己存在感を実感できる学校づくりを推進する。

(取組を始めたきっかけ)

本校は、今年度創立 100 周年を迎える歴史と伝統のある普通科高校である。一人一人の個性を伸ばしながら、豊かな心と何事にも意欲的に取り組む進取の精神を育てている。

校長のリーダーシップのもと、教職員と生徒が一丸となり様々な活動に取り組む姿を「チーム若松」という合い言葉で示し、「地域に愛され、信頼される学校」を目指している。一方、様々な事情により、自己肯定感や学習や進路に対する意欲などの面で課題を抱える生徒も少なくない。

そこで、教育内容の一層の充実に努め、様々なことに積極的に挑戦させ、生徒一人一人に自信を持たせながら、「確かな学力」を育みたいと考えた。そのためには、指導方法の工夫・改善を図り、学習意欲を高めていくことが必要である。また、学校・学級の中で、一人一人の存在や思いが大切にされる環境を成立させねばならない。

これらの課題を解決するためには、人権教育を推進することが効果的であると考え、平成 21 年度から 3 年間、福岡県教育委員会指定の「人権尊重の学校づくり推進指定校事業」に取り組んだ。

(取組の内容)

(1) 人権が尊重される「環境づくり」

「人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]」及び「福岡県人権教育推進プラン」を踏まえ、人権が尊重される学校づくりの具体的なイメージを教職員全体で共有するために、人権尊重の視点



平成24年度  
創立100周年。

百年の歴史と伝統を基盤として、  
「地域に愛され、信頼される学校」を目指します。

校訓  
**礼儀**  
礼儀をわきまえ、規範意識が高い生徒を育成する。  
**責任**  
確かな判断力と責任感を備えた生徒を育成する。  
**自主**  
志の実現を目指し、粘り強く自ら進んで努力する生徒を育成する。

「人権尊重の学校づくり」推進指定校

平成 21 年度から平成 23 年度までの 3 年間、教育活動全体を通して一人一人の生徒に自他の人権を守るための意識・態度、実践力を身に付けさせるための効果的な指導方法について研究実践を行っています。

研究内容

人権が尊重される「学習活動づくり」 (平成 23 年 11 月 1 日公開授業を実施)	「学習環境づくり」 (教育基盤)	「人間関係づくり」 (仲間意識)
--	---------------------	---------------------

「平成 24 年度入学者用学校案内」より



に立った校内環境や教室環境の整備から始めた。

保健部を中心に、清掃・資源回収活動を積極的に進め、生徒が主体的に活動する場の設定に努めた。また、図書館をはじめとする校内の掲示板を活用し、同和問題啓発強調月間や人権週間等に人権に関わる新聞記事や書籍の紹介をしたり、個別の人権課題についての書籍コーナーを設置したりして、人権に関する知的理解を促す環境づくりに努めた。



校内掲示板の活用

## (2) 人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」

日々の授業における活動の一つ一つが、人権尊重の雰囲気醸成の上での重要な要素になることから、「人権が尊重される授業づくりの視点例」(〔第三次とりまとめ])をもとに日常の教科授業の見直しを図った。

各教科会議で各自が作成した指導案を持ち寄り、指導方法の工夫・改善について検討を重ね、授業公開後の研修会で

以下のことを教師間で共通認識を図った。

- ① 授業のねらいの明確化と内容の焦点化を図ること
- ② 指導案には、教科等のねらいと併せて人権教育を通じて育てたい資質・能力を明示すること
- ③ 人権が尊重される授業づくりの視点例を参考に、教師の支援・援助を行うこと



授業公開後の校内研修

さらには、総合的な学習の時間、ホームルーム活動、学校行事等においても、先の視点例で見直しを図り、教師と生徒間の信頼関係や生徒同士の間関係の深化を目指した。

＜若松高校実践をもとに作成した学習活動例＞

(人権教育指導者用手引きⅡ [福岡県教育委員会作成] より)

第1学年英語科・「コミュニケーション英語Ⅰ」単元名「Shopping」

「体験」を取り入れた学習

高等学校

買物の場面でのロールプレイングを行うことで、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに異文化理解を図る学習。

多様性の尊重、共生

○ 異文化理解

本時のねらい

- ロールプレイングを通して、買物の場面で用いられる特有の英語表現を、的確に理解したり適切に伝えたりすることができるようにする。
- ALTとのロールプレイングを通して、英語での買物の仕方を学習することで、文化や習慣には多様性があることを知る。

	学習活動	教師の支援・援助
導入	1 ペアで挨拶を行う。  英語で買物ができるようになろう。	○相手に対する配慮を促す。
展開	2 洋服を買う際の英語表現を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Can I help you? I'm looking for ~.</li> <li>• What color do you want? I'd like a (red) one.</li> <li>• What size do you wear? Medium, please.</li> <li>• I'd like to try~on.</li> <li>• Do you have~?</li> <li>• How much~?</li> <li>• I'll take it. 等</li> </ul> 3 2の英語表現を対話練習する。 4 ALTが店員役となった店に何組かのペアまたはグループが買物をする。それぞれ、前もって与えられた100ドルの中から支払う。おつりを確かめる。	○JTEとALTがデモンストレーションをする。その際に、リズムやイントネーションなどの英語の音声的特徴、話す速度、声の大きさなどに注意させる。  <b>表現方法を選択する機会を提供する。</b>  ○ペア、グループ、授業者との練習などの学習形態をとり、個に応じた支援を行う。 ○積極的な参加ができるよう具体的な買物の場面を設定する。(ジーンズ、Tシャツ等の写真や絵で作った「商品」、「紙幣」、「硬貨」等を準備する。) ○場合によっては、おつりを故意に間違える。
	5 4の買物で、気付いた点やもっと知りたい英語表現を日本語で発表する。  この学習活動を通して、「他者に興味・関心を持ち、よき人間関係を築きながら生活しようとする態度」を育成します。	○生徒の気付いた点やもっと知りたい英語表現について、JTEとALTが英語で対話をする。 ○おつりの渡し方について説明を加え、買い物の際の習慣の違いなどの補足説明をする。
整理	6 教師のまとめを聞く。	○本時、学習した英語表現を確認する。 ○文化や店舗によって多様な習慣があることを、例を紹介しながら話す。

この学習活動を通して、「文化や習慣には多様性があることを知り、互いに違いを認め合いながら、共に生きようとする態度」を育成します。

教師が一人一人を大切にしている姿勢を示す。

#### 4. 実践事例の実績、実施による効果

(取組が効果を上げた実際の事例)

##### 学習活動Ⅰ 他者と協力しながら自己の存在の大切さを実感する

本校では、地域貢献という形で生徒によるボランティア活動に取り組んできた。その一つに「菜の花プロジェクト」の活動がある。若松区の響灘ビオトープ東側道路緑地 300mに菜の花を植え、通勤者の心を癒したり、「ポイ捨て防止」等の環境美化につながったりすればという思いから地域の方々と一緒に計画を立て取組を進めた。平成22年10月に、生徒たちと地域の方々と、雨の中種まきを行った。

その後も除草や移植作業を行い「ECO(エコ)」という文字が浮き出るように工夫した。努力の甲斐あって、春にはきれいな花が咲いた。

また、翌年6月の若高祭(文化祭)で、インターアクトクラブが菜種から搾油する実演を行った。また、一緒に活動している障害者福祉サービス事業所が製造した「なたね油石鹸」を販売し、収益を東日本大震災の義援金とした。

校内の環境づくりが地域の環境づくりへと広がり、地域の方々との交流へと発展し、生徒たちの自己肯定感、人間関係調整力の育成に効果的であった。



雨の中の種まき



搾油の実演

##### 学習活動Ⅱ 多様性を尊重し、人権問題を自らの課題とし行動する

###### ① 当事者との出会いを通して

公共交通機関で通学する生徒が多い本校にあって、障害者との出会いは少ない。人権問題をより具体的で身近な問題として捉えさせるために、障害のある当事者と出会う学習に取り組んできた。

生徒指導部と人権教育担当で指導のねらいと内容を話し合い、「公共交通機関を使うにあたって」という生徒指導部の話と、車椅子ユーザーの青年から体験談「スローバスに乗車する時」という構成で学習を行った。

さらに、福岡県教育委員会が作成した人権教育学習教材集「あおぞら」を活用して、「ユニバーサルな社会を目指す」学習に発展させた。バリアフリーをさらに進め、ある特定の人のためではなく、能力や年齢、国籍、性別などの違いを越えて、

すべての人が暮らしやすいように、まちづくり、ものづくり、環境づくりなどを行うことの重要性を学ばせることができた。生徒は日常生活における周囲の人々への関心や配慮がどれほど大切であるか、またどのように行動すれば良いのかが実感できたと考える。

## 「ユニバーサルな社会を目指す」学習プログラム

### ステップⅠ 体験的な学習（コミュニケーション能力）

「共生社会を考えよう」（1時間）

- 障害者の社会参加について、1枚の写真を通して理解し、適切なコミュニケーションについて考えよう。
  - ・ グループでロールプレイングを行う。

《資料》

「Mahalo」（人権教育学習教材集「あおぞら」〔福岡県教育委員会作成〕）

### ステップⅡ 体験的な学習（想像力・共感力）

「当事者はどう思っているのだろう」（1時間）

- 車椅子ユーザーの体験に耳を傾け、自分と自分の身の回りを振り返ろう。

### ステップⅢ 協力的・参加的な学習（多様性の尊重・共生）

「ユニバーサルデザインすごろくに挑戦」（1時間）

- 「ユニバーサルデザインすごろく」をしよう。
  - ・ すごろくに書かれた内容は、グループみんなで読んで共有する。

### ステップⅣ 実践的知識を学ぶ学習（参加・参画）

「ユニバーサルな社会を目指す」（1時間）

- ユニバーサルデザインの考え方を理解し、誰にとっても暮らしやすい社会について考えよう。
  - ・ ユニバーサルデザインの7原則で学校を点検する。

《資料》

「ユニバーサルデザインって何？」

（人権教育学習教材集「あおぞら」〔福岡県教育委員会作成〕）



「共生社会を考えよう」



「ユニバーサルすごろくに挑戦」

## ②異なる文化との出会いを通して

本校姉妹校であるニュージーランドのワイララパカレッジとの交流を通じ、異文化体験、コミュニケーション能力の育成を図っている。毎年12月に留学生を招き、ALTや保護者の協力のもと、他の高校・中学校の参加も得て「一日英語セミナー」を実施している。英語力の向上だけでなく、中学生とともに異文化に対する理解を深め、学力向上と人権感覚の育成を併せて追求する機会としている。また、英語圏の文化だけでなく、近隣諸国の文化や在日外国人の問題に関する学習にも取り組んでいる。

これらの取組は、生徒に様々な人権問題の存在に気付かせるとともに、その解決に向けて多くの人々の努力が重ねられていること、自らの日常生活や活動とは無関係でないことを理解させ、人とかかわることの良さに気付かせることによって、人間関係調整力の育成につながった。



姉妹校との交流



一日英語セミナー

## 学習活動Ⅲ 自らが社会に参加・参画しようとする意欲や態度を身に付ける

一人一人の力は小さくても社会貢献できる方法として、ボランティア活動と寄付の方法があることを知り、自分の意思で何かが変わることを実体験として学ぶ「寄付の教室」の授業を1年生で実施している。

その中で、三つのNPO活動のどの団体に寄付したいか自分の考えを出し合い、グループで異なる意見交流をさせた。

この学習で、自分たちが行っているキャップ集めが実際に社会貢献できていることが実感でき、また様々な活動の在り方や考え方を知り、自分に合った社会貢献

についても考えさせることができた。また、生徒自らが課題に気づき、積極的に学習を進めていく「参加体験型」授業の方法は、日常の授業改善の参考にもなった。



グループ討議で意見交流



キャップの贈呈式に参加

## 5. 実践事例についての評価

(取組の成果○と課題●)

- 「環境づくり」として校内環境や教室環境の整備から始めたことにより、教職員の参画意識を高めながら、「人権尊重の学校づくり」についてイメージを共有することができ、「学習活動づくり」や「人間関係づくり」へと発展していった。
- 「人権が尊重される授業づくりの視点例」を参考に各教科授業の見直しを図ったことにより、各教科の目標やねらいを明確にして、人権教育を通じて育てたい資質・能力を具体的に位置づけることができるようになった。
- 同様に、総合的な学習の時間、ホームルーム活動、学校行事等を見直すことで、これまで意識されなかった意味付け・価値付けが明確となり、教職員の連携が具体的になった。
- 各教科授業をはじめあらゆる教育活動において、「協力」「参加」「体験」を意図的に学習活動に位置づける場面が増えてきた。
- 学校行事や地域貢献活動等の体験的学習でも、より主体的・積極的な活動が展開されるようになり、生徒の積極的な参加姿勢が育ってきた。
- 年度途中や年度末など、適宜、実施内容について評価し、改善・充実のための方策を明らかにし、今後の取組や活動に活かしていく必要がある。

以上のような成果と課題及び生徒の実態を踏まえて、人権教育の目標と各教科・学校行事等の目標とねらいの関連を明確にした上で、有機的・相乗的に効果上がるよう、更なる指導内容の充実と指導方法の工夫・改善を図りたい。

## 【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

福岡県立若松高等学校

学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりを組織的かつ効果的に進めている実践事例である。教科等指導，生徒指導，学級経営などの教育活動で，「学習活動づくり」，「人間関係づくり」，「環境づくり」を一体的なものとして指導していることが主な特徴である。人権関連の活動については，学習指導案に人権教育を通じて育てたい資質・能力を明記する，「ユニバーサルな社会を目指す」ための学習プログラムを活用する，個別の人権課題についての書籍コーナーを設置する、などの工夫がなされている。また，地域貢献のための「菜の花プロジェクト」や姉妹校であるニュージーランドのワイララパカレッジとの交流など，参加体験型の方法を積極的に活用している。生徒自らが人権感覚をもって社会に参加・参画しようとする意欲や態度の効果的な育成をめざす試みの一つとして示唆的な事例である。